

京都・平安京跡右京六条三坊六町

# 平安京

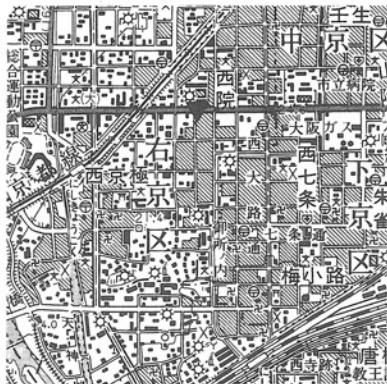
- |       |             |       |                 |               |                |       |      |
|-------|-------------|-------|-----------------|---------------|----------------|-------|------|
| 7     | 6           | 5     | 4               | 3             | 2              | 1     |      |
| 所在地   | 京都市右京区西院溝崎町 | 調査期間  | 二〇〇四年（平16）四月～六月 | 発掘機関          | （財）京都市埋蔵文化財研究所 | 調査担当者 | 南 孝雄 |
| 遺跡の種類 | 都城跡         | 遺跡の年代 | 平安時代            | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 |                |       |      |

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、会社施設建設に伴つて実施された。調査地は六町の南部にあたり、調査では馬代小路側溝、掘立柱建物、井戸などを検

が墨書きされた男女一対の人形は、井戸SE一から出土した。

馬代小路側溝は延長三〇mにわたって検出してお  
り、幅四m以上、深さ一・  
二mを測る。遺物はほとん  
ど出土しなかつた。側溝の



(京都西南部)

西肩は調査区外となるため確認できなかつたが、規模からみると道路側溝というより河川と呼ぶ方が相応しい。これまでの平安京内の調査によれば、九世紀後半以降の右京では、雨水が氾濫しやすい地形に対応するため、いくつかの道路を排水路として造り替えている

形に対応するため、いくつかの道路を排水路として造り替えていることが判明しており、この馬代小路もその例になるものとみられる。調査区北西部に位置するSB一は、二間×五間の身舎に両廂の付く南北棟建物である。柱間は桁行・梁間ともに八尺（一・四m）、廊の出は九尺（一・七m）である。井戸SE一はこの建物の南一〇mの地点で検出された。掘形は一辺三m、深さは一・五mを測る。掘形四隅には柱穴が検出されており、井戸覆屋を伴っていた。井戸枠は抜き取られている。埋土は大きく四層に分かれ、最上層の第四層の黒褐色粘質土からは、土師器・須恵器などとともに、櫛、斎串、「吉」銘墨書土器など祭祀具とみられる遺物がまとまって出土した。これらの遺物は井戸廃棄時の祭祀に伴うものとみられる。報告する人形二体は、これとは別に第三層の灰褐色粘質土より出土した。共伴遺物はなく、第四層出土遺物とは性格が異なることが窺える。井戸から出土した土器類の年代は九世紀初頭に位置付けられ、建物と井戸は平安京遷都後間もない頃のものであることがわかる。

8

「葛井福万呂  
葛井福万呂」

## (2) 「檜前阿古□□□」

165×25×15 061

(1)は男性像の人形。人名は左胸と右胸に一行ずつ墨書きされている

が、腹部にかかる下半の一部は墨書きの後、削り取られている。一本  
を削り出して立身を模り、足をやや屈曲させている。後ろに回る両  
腕は、別材で作り木釘で固定する。頭部は鳥帽子状に、顔部は目・  
鼻・口を削り出す。墨書きによって頭髪、睫毛、瞳、口髭、頬髭が  
表現される。

(2)は女性像。人名が胸部から腹部にかけて墨書きされている。腕は  
欠損しているが、体部側面上方には、腕を後ろ手に固定するための  
切り込みや木釘痕が残り、男性像と同様であつたことがわかる。頭  
部の形状は髪を結いため頭上一髪を表現していると思われる。  
胸部や腹部は男性像に比べてややふくらみ、ふくよかに表現されて  
いる。材質は二体ともにスギ材。

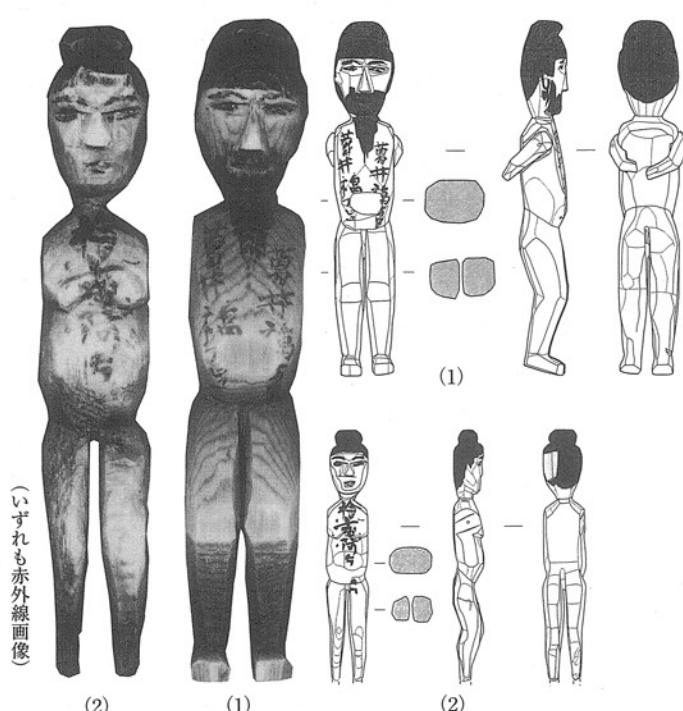
「葛井」「檜前」はともに下級官人を輩出した渡来系氏族であり、  
下級官人の居住地として、今回の木簡の出土地点は相応しい。男女  
の人名が墨書きされた人形は、平城京や平安京内でも出土例があるが、  
今回のように立体形に作られるものはない。手を後ろに回し足を少  
し屈曲させる姿は罪人を思わせる。このよつたな形状からみて、これ  
らの人形は男女の和合や厄払いを目的としたものではなく、呪具と  
して使用されたものかと思われる。

なお、釈読については京都大学の西山良平氏、人形の性格について  
は奈良大学の水野正好氏からご教示を得た。

## 9 関係文献

(財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京右京六条三坊六町跡』(京都市  
埋蔵文化財研究所発掘調査概報一〇〇四一、一〇〇四年)

(南孝雄)



(いずれも赤外線画像)